

第62回愛知県総合教育センター研究発表会
テーマ「資質・能力の育成を目指した学びの在り方」(2年次)
令和4年11月25日(金) 愛知県総合教育センター

第62回愛知県総合教育センター研究発表会を、「資質・能力の育成を目指した学びの在り方」(2年次)というテーマの下開催した。当日はZoomを用いたオンライン開催、令和4年12月15日から令和5年1月13日までは、オンデマンドによる動画配信を行った。オンライン開催には約430名の参加者、オンデマンド動画の視聴回数は、延べ667回となった。

以下にこれらの概要を紹介する。

1 開会行事次第

- ・開会のことば
- ・所長挨拶
- ・基調提案
- ・閉会のことば

2 講演

- ◆演題 「1人1台端末を活用した令和の学びの在り方
ーGIGAスクール構想をいかに駆動させるかー」
- ◆講師 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター
主幹研究員・准教授 豊福晋平氏

3 研究発表・研究協議

次の各研究についてオンラインによる発表と協議を行った。なお、各研究の詳しい内容については、当センターウェブページ「研究紀要第112集(令和5年3月24日掲載予定)」参照。

◇第1部会(小中高特)

学校教育目標を実現するための社会に開かれた教育課程の在り方に関する研究

【発表・協議の概要】

本発表について基調提案を行い、研究協力校6校の代表委員から研究実践について発表した。また、研究成果と課題を報告し、参加者からの質疑応答を行った。

基調提案では、先行研究である「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究」の成果物を活用し、①学校教育目標の社会との共有、②子供たちに必要な資質・能力の明確化、③地域との連携・協働、の3観点から「社会に開かれた教育課程」の在り方を考え、推進していく方法について説明を行った。

研究発表では、基調提案で示された3観点についてさまざまな取組が報告された。①学校教育目標を社会と共有するために全教職員で策定したグランドデザインを、簡略化するなどの工夫をして生徒や保護者、地域の方々に周知する取組、②児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確化し、その育成を目指

した授業研究，③すでに取り組まれていた地域との協働的な活動を見直し，資質・能力の育成という目標を地域と共有した教育実践が報告された。

質疑応答では，グランドデザインの策定における時間と労力や協議の意義，育成したい資質・能力を教科指導に落とし込む手立て，新たな地域連携による具体的な変容の3点について質問があり，代表委員が回答した。

◇第2部会（高特）

これからの時代に求められる資質・能力を育む学びの在り方に関する研究

【発表・協議の概要】

本発表について，基調提案と研究協力校代表委員5名による「総合的な探究の時間」の実践発表，代表委員5名によるパネルディスカッションを行った。

基調提案では，研究の具体的内容や各校における実践の概要について確認した。3年間を見通し，生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした指導計画を立てるためには，校内の組織体制を明確にすることや，全教職員がチームとして取り組むことの必要性を説明した。また生徒の変容を捉える指標として，クランボルツ理論と「総合的な探究の時間」で身に付ける資質・能力のアンケート調査についても説明した。

実践発表では，各校における「総合的な探究の時間」について，目指すべき生徒像，校内組織づくり，特色ある取組，成果と課題等について発表した。

パネルディスカッションでは，「総合的な探究の時間」は教科の学びにも影響を与えているのか，実践を通して生徒の変化を感じているか，などの質問に研究協力校代表委員5名が回答した。

◇第3部会（小中高特）

新学習指導要領を踏まえた学習評価の在り方に関する研究

【発表・協議の概要】

本研究について，基調提案と研究協力校7校のうち3校の実践発表，代表委員によるパネルディスカッションを行った。

基調提案では，新学習指導要領における学習評価の基本的な考え方を確認した。教師の授業改善と児童生徒の学習改善につなげるため，「効果的な指導と評価の一体化の方法」「主体的に学習に取り組む態度に焦点を当てた児童生徒を見取るための視点や方策」の2点を探る研究の目的を確認して，研究の方法や内容について説明をした。

実践発表では，授業マネジメントシート活用による授業改善と授業のねらいに迫る問いを含む効果的な振り返りに関する各校の取組を発表した。

パネルディスカッションでは，授業改善につながる視点やポイント，振り返りにおけるねらいに迫る問いの工夫等についてそれぞれの意見や感想を述べた。

◇第4部会（小中高特）

通級による指導の充実に関する研究

【発表・協議の概要】

本発表について、基調提案と研究協力校3校での研究実践の発表、研究協力校代表委員によるシンポジウムを行った。

基調提案では、特別支援コーディネーターを中心とした通級による指導の充実を通常の学級での学習や生活につながる効果的な校内体制、また情報交換実施マニュアルの活用など、通級による指導の充実に向けた研究の目的や方法、実践内容についての説明を行った。

実践発表では、よりよい連携ができる校内体制の在り方や、特別支援コーディネーターが中心となって行った情報共有や情報交換の実践例が報告された。

シンポジウムでは、本研究に携わった研究協力校代表委員それぞれの立場から、「通級による指導の充実」をメインテーマに今回の実践で感じたことや今後に向けての方策について意見交換を行った。特別支援教育コーディネーターの役割の重要性や、特別支援学校のセンター的機能の活用、関係する教員全員で話し合うことや学校全体で取り組むことの大切さについて改めて確認する内容となった。

◇第5部会（高特）

県立高等学校教育課程課題研究（国語）

【発表・協議の概要】

本発表では「資質・能力の育成を目指した領域ごとの評価の研究」について、基調提案と研究員6名の研究発表の後、参加者との研究協議や質疑応答を行った。

基調提案では、観点別学習状況の評価について、特にパフォーマンス課題において「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価するか、また、考査において「思考・判断・表現」をどのように評価するかという研究の目的を確認した。

研究発表では、パフォーマンス課題と考査について、領域別に6名の研究員が各校の実践例を発表した。単元の評価規準に適したパフォーマンス課題の設定とそのパフォーマンス課題を観点別に評価するためのルーブリックについて、また、「思考・判断・表現」を見取ることができる考査問題についての成果を報告した。

研究協議では、考査とパフォーマンス課題にはそれぞれの利点があるので、精選し効率よく行う工夫をすることが重要であるということが話し合われた。

◇第6部会（高特）

県立高等学校教育課程課題研究（情報）

【発表・協議の概要】

本研究では、学習指導要領の各単元の目標に沿って、生徒が授業で学んだ知識や技能を活用し、主体的、協働的に取り組むことができるパフォーマンス課題を、研究員が協力して作成した。また、思考力、判断力、表現力等を育み、学習内容の深い理解につながる指導方法及び評価について、実際に複数校で授業を行い、成果の検証を行った。

研究発表では、情報Ⅰにおいても活用できるルーブリックと評価方法、パフォーマンス課題、効果的な指導方法等の授業実践事例を報告した。また、図解、ピクトグラム、プログラミング、テキストマイニング、動画のデータ容量、デジタル・シティズンシップの育成など、生徒の身の回りにあることを題材にして、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践の報告を行った。

研究協議では、具体的な評価方法や研究の過程について、参加者からの質問に研究員が回答した。

4 教育相談特別研修研究報告動画について

愛知県立新川高等学校 長瀬 敦 教諭

テーマ「高校生のSNS利用における傍観行動とコミュニケーションスキル—LINEグループ利用場面を想定して—」

高校生533名を分析対象としてLINEのグループチャット内での傍観行動の度合いを測定する独自尺度とコミュニケーションスキルを測定するENDCOREs得点を用いて重回帰分析を行った結果、「対立解消」のコミュニケーションスキルと傍観行動のしやすさには負の相関があることが分かった。感情的・意識的な不和を適切に解消する方法を学べば、傍観行動を減少させられる可能性がある。様態ごとの傍観行動と理由の結果においては、「仲のいい友人」の場合「関わりたくない」「巻き込まれたくない」と回答する生徒が有意に多い結果となった。